

抜歯即時インプラント

ふれあいファミリー歯科

1. 抜歯即時インプラントとは

抜歯即時インプラントは、抜歯と同時にインプラントを埋入する治療法です。

通常、抜歯をした所にインプラントを埋め込む場合には抜歯した骨や粘膜が治るのを待つかインプラント治療を行うので2～6カ月程度おいてからインプラントを埋入します。

さらに治療期間2～6ヶ月を経て被せ物を作成していました。

そのため、インプラント手術をするまでに期間があいてしまうので歯がない期間は食事や会話のしにくさでストレスになってしまうこともあり、患者様には大きな負担を強いていました。

抜歯即時インプラントは抜歯をした後にすぐインプラントを埋入ができるので、治療期間の短縮や回数の短縮ができ、患者様のストレスを大幅に軽減できます。

また、切開をしないため歯肉のダメージが少なくなりますので、審美的にキレイな歯に仕上がります。

2. 治療の流れ

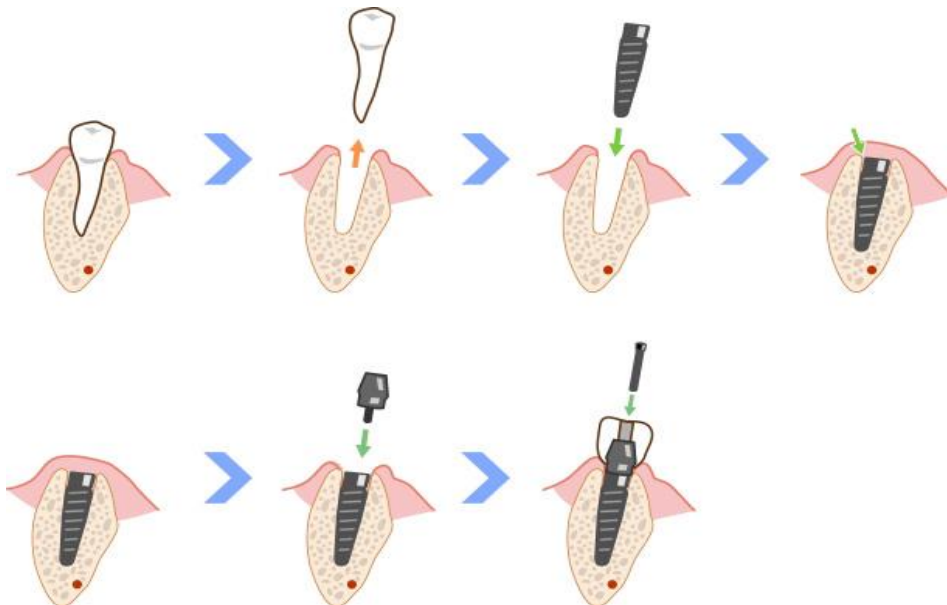
①抜歯後すぐに、抜歯してできた穴(抜歯窩)をドリルで整えてインプラントを埋め入れます。

②穴とインプラントの隙間に骨補填材を詰めます。

仮歯で歯肉の形態を整えていきます。(状況により仮歯を入れない場合もあります)

③約3～5ヵ月後、インプラントの周囲は新しい骨で囲まれ、歯肉も治癒されます。

最終的な被せ物を装着して治療は完了です。



抜歯即時インプラント

ふれあいファミリー歯科

3. 抜歯即時インプラントのメリット・デメリット

(1) メリット

- ① 抜歯とインプラント埋入の2回の手術が、1回に減らせるので、患者様の負担が少ない。
- ② 抜歯して同時にインプラントを埋入するので、治療期間が通常の半分で終わる。
- ③ 抜歯と同時に行うので、痛みが少なく腫れることがほとんどない。
- ④ GBRなどの追加手術をすることがほとんどの場合で必要なくなる
- ⑤ 歯肉を切らないで済むので、見た目の仕上がりが良い。

(2) デメリット・リスク

- ① 通常のインプラント手術と比較して、高度な技術を要する。
- ② インプラントを埋入する為の、しっかりとした骨の量が必要となる。
- ③ 骨吸収を予測して少し深めにインプラントを埋入しないとイケない

4. 抜歯即時インプラントの適応症と禁忌症について

(1) 適応症

- ① 抜歯窩底から根尖側3～5mmに初期固定を求める既存骨が存在する場合
- ② 歯槽骨が温存された外傷歯牙
- ③ 理想的な位置にインプラントを埋入した際に頬舌的・垂直的に十分な既存骨が存在する場合
- ④ 保存不可能な縁下カリエスや歯根破折、もしくはパーフォレーションにより要抜去となった歯牙
- ⑤ 永久歯先天欠如に伴う根吸収、根の内部吸収を引き起こした乳歯

(2) 禁忌症

- ① 抜歯窩の骨欠損が大きく、初期固定が得られない場合
- ② 急性炎症を呈している場合
- ③ 抜歯窩根尖付近に解剖学的に重要な器官(上顎洞、下顎管など)が存在する場合
- ④ 裂開及び開窓がある
- ⑤ 喫煙者
- ⑥ 歯肉縁が低位
- ⑦ 歯肉がthin scalloped(歯茎の厚さが薄い)